

# 人口減少と少子化を乗り越える子育てと教育の支援

秘訣

出生数を飛躍的に増やした町はある

## 子育てと教育の経済的負担を大幅に軽減すること

### 埼玉県滑川町

合計特殊出生率、  
H13年1.29が27年に1.82にアップ

(取り組んだ施策)

- ①小中、保育園、幼稚園などの学校給食費を全て無料に。
- ②出産祝い金は第三子から、出生時、小学校入学時、中学入学時に各5万円支給
- ③子育て支援サービスに使える3キュー子育てチケット5万円分支給(県の事業)

町長が「子育て全国一」を選挙公約

### 岡山県奈義町

合計特殊出生率、  
H17年1.41が26年に2.81にアップ

(取り組んだ施策)

- ①高校在学中のは年額6万円補助
- ②医療費は高校卒業まで無料
- ③出産祝い金
- ④ワクチン接種補助
- ⑤不妊、不育治療助成
- ⑥里帰り出産の補助
- ⑦多子世帯の保育料軽減

全国一の出生率を宣言(H27年)



子どもを生むことをためらう一番の原因は、子育てにお金がかかりすぎるから。子どもの教育は大学までと希望する親が増えていますから、なおさらです。

だから義務教育は完全無償化に。子育ての経済支援策をたくさん用意している。こうした町が若者に選ばれ、結果として合計特殊出生率が上がっています。この政策こそ人口減少に最も効果的であることが、はっきりしています。

## 村上千代通信

発行 日本共産党市議団 Tel.23-5212 2019.12.22

## 効果の薄かった市の方針

鉧路市の人口増加策の考え方は、「進学・就職でいったん鉧路を離れた人たちが、子どもを産む年齢になったらまた鉧路に戻ってきてもらう。そのために、若い人の就職口をつくる。観光は、その有望株。」というものでした。これ自体は間違いではありませんが、全国の自治体と同じ方法で、転入者増を競い合っているのですから、単純な話ではありません。結果は、このやり方だけでは、若い人が子育て時代に過ごすまちとして、鉧路を選んでも、ええなかったのです。考えてみれば、雇用先を確保したとしても、都会で仕事をしている若者が、こぞって鉧路に帰ろうとなるでしょう。市の計画は、この大事なポイントを見誤ったものでした。

村上議員は議会でこう質問しました。

市の考えを全否定するつもりはない。でも、それで本当に人口を増やせるのか。全国が取り組んでいる総合戦略の中で、市が言うように就職先を確保して転入者を増やして人口が増えた町があるなら実例を示してもらいたい。



市の答弁は・・・

そのような実例はおさえていません。

つまり、全国的に成功例も知らないのに、その考えにしばられているのです。

苦小牧市に人口が抜かれ、数年後には帯広市にも抜かれる・・・これが鉧路市の将来の人口推計です。少子化がどんどん進み、人口減少に歯止めがかかりません。5年前、全国の自治体は人口減少にストップをかけるとして「まち・ひと・しごと創生

総合戦略」をつくり、人口増加策を競い合いました。第1期の5年間で終わりました。鉧路市は出生数を30%、転入者を27%を増やす目標を掲げましたが、増やすどころか5年間でそれぞれ12%、1.3%と、逆に減らしてしまいました。それはなぜでしょうか？